



ふるさとの風

～卯月～

伊勢図書館のふるさと文庫には、郷土の歴史、文化、産業の資料や郷土著名人の書物などを揃えています。

また、2階展示ホールのケースには、貴重資料や、時節に沿ったテーマで、資料を展示しています。図書館だよりでは、毎月、ふるさと文庫からいろいろなテーマにそった本を紹介していきます。

伊勢暦

今から134年前の明治9年4月18日、三重県と度会県が合併し、新しい「三重県」がスタートしました。

4月。入学・就職の季節…、新生活の始まりです。
新年度を迎え、カレンダーや手帳を見るが多くなった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

江戸時代、暦の代表として普及したのが「伊勢暦」です。
神宮の御師が檀那に頒布したり、伊勢詣での恰好の土産として大変喜ばれ、享保年間(1716年～1735年)にはその発行部数は毎年200万部に達するほどでした。

御師はさまざまな品物を土産にしたといいます。その中でも暦は、軽くて持ち運びに便利であるため、次第に珍重されるようになりました。

また、八十八夜、二百十日といった農事に関わる記述に加え、日々の吉凶も記されていたことから、非常に重宝されました。

江戸初期の大名茶人、織田有楽斎の茶室「如庵」の腰張り(室内が土壁である場合に、壁の腰回りに紙を貼ること)には、伊勢暦が用いられています。また、書籍の表紙や行灯の張り紙となった例もあり、伊勢暦は意匠としても流布していたことが分かります。

伊勢暦は、伊勢が最新の情報の発信地であったことの一つの象徴といえるでしょう。

- ◆ 伊勢暦 (富田大貳／弘暦 富田大貳 L449／イ)
- ◆ 三重県史研究 第10号 (三重県総務部学事文書課／編 三重県)
- ◆ 日本の暦 (岡田芳朗／著 新人物往来社 4498／オ)
- ◆ 宇治山田市史 上巻 (宇治山田市役所／編 国書刊行会 L243／ウ／1)